



オリジナル見出しに挑戦

無限の想像力で表現

子どもたちの想像力は無限で自由奔放。

NIE塾や出前授業では、子どもたちに新聞の記事と写真を見せてオリジナルの見出し作りに挑戦してもらっている。作品には、「笑顔」「幸せ」など、人々の表情や感情を捉えたり、春先の土手を見て「ツクシの林」、新そばまつりを見て「幸福する」などと、ふと

感じた情景を捉えたりしているものが多い。

考えている姿も、じっと何かを見つめ物思いにふける姿も絵になる。時折、指を折りながら文字数を確認する様子は、まるで本物の記者のようで格好よくさえ感じる。

やがて、さまざまな言葉があふれ出てきて、楽しそうにペンを動かす。どの見出しも紙面に見事にマッ

チしてはばっと見ただけで記事の内容が伝わってくる。不正解はない。どれもが正解なのだ。子どもたちの思いがつかまっていて、そこには小さな自信と誇りが垣間見える。

そして、出来上がった見出しを仲間同士、根拠を示して自らの言葉で喜々として伝え合う。そこには、みんなで気持ちを共有する空間が生まれる。楽しそうで、こちらも笑顔になる。

今、求められている「主体的・対話的で深い学び」が、まさにこの場にあり、自然に思考力や判断力、表現力が培われているように感じた。

(徳島泰彦)